

事前学習課題

1 観察要領及び応急処置

(1) 観察



この科目の学習内容

1 観 察

2 バイタルサイン

1 観 察

(1) 外見観察

傷病者に近づきながら身体の外見を観察します。

ア 傷病者の状態

歩行できるか、どのような姿勢でいるか

イ 出血の有無

出血はあるか、あればどの程度の量か

ウ 顔貌

顔色はどうか、どのような表情をしているか

エ 嘔吐、失禁の有無

嘔吐はあるか、失禁はあるか

※傷病者：病気やケガをしている人

(2) バイタルサイン

ア 意識の状態

呼び掛けや皮膚の刺激に対する反応をみる

イ 呼吸の状態

きょうふくぶ
胸腹部の動きや吐く息により、呼吸の有無、呼吸数、
性状をみる

ウ 脈拍の状態

とうこつどうみやく そうけいどうみやく
橈骨動脈、総頸動脈等を指先で触れ、脈拍の有無、
脈拍数、性状をみる

エ 皮膚・体温の状態

皮膚の状態(乾燥、湿潤等)や体温をみる

※ バイタルサインとは、生体が活着していることを示す兆候をいいます。
脈拍、血圧測定は、医療従事者が行う。

2 バイタルサイン

(1) 意識の観察

肩をやさしく叩きながら、大きな声で呼びかけます。
視線は傷病者の顔(眼瞼部)を観察しましょう。



反応がなければ、119番通報
をします。

(2) 呼吸の確認

傷病者の頭部の高い位置から、胸とお腹を斜めに見て、動きの有無を確認します。

呼吸の観察には10秒以上かけないようにしましょう。

※呼吸の確認時は気道確保の必要はありません。



一般的な呼吸数は次のとおりです。

成人 14～20回／分

幼児 20～30回／分

乳児 30～40回／分

新生児 40～60回／分

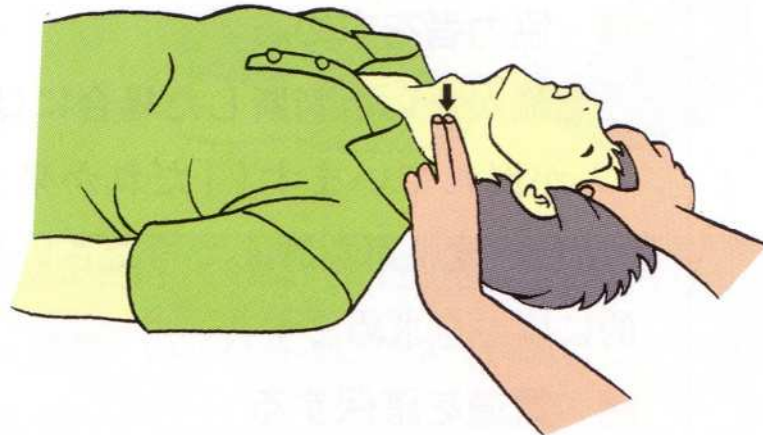
※ 年齢が低くなるほど回数が多くなります

(3) 脈拍の観察【参考】

脈拍は、傷病者の^{とうこつどうみやく}橈骨動脈、^{そうけいどうみやく}総頸動脈又は大腿動脈に、人差し指、中指の2指又は薬指の3指をあてて観察します。10秒間で脈拍の強さ、規則性、回数等を観察します。

不整脈がある場合には、正確に1分間観察します。

※乗務員の脈拍測定は必ずしも必要ありません。



一般的な成人の脈拍数は次のとおりです。

通常 60～80回／分

頻脈 100回／分 以上

徐脈 60回／分 未満

(4) 脈拍触知による推定血圧 【参考】

血圧計がない場合でも、脈を触れることによって血圧値を推定することができます。

○ とうこつどうみやく 橈骨動脈で脈拍が触れる場合には

血圧80mmHgと推定

○ そうけいどうみやく 総頸動脈のみで脈拍が触れる場合には

血圧60mmHgと推定

一般に血圧が60mmHgを下回ると

意識障害の症状が現れます。

(5) 皮膚の状態、体温の観察

皮膚の観察は、傷病者に呼びかけるときの顔面等の視認、額に手をあてたときの感触などにより観察します。

皮膚が乾燥している状態は、脱水時の状態のひとつです。また、紅潮や発汗は発熱時の特徴的な状態です。

体温は、傷病者の大切な情報のひとつであり、額などに手をあてて観察するとともに、体温計を活用し正確な体温の把握に努めましょう。

バイタルサインについては

- ・ 現場を出発する前
- ・ 搬送中
- ・ 病院等に到着前

など定期的に観察し、観察した結果を記録しておくことが大切です。



クリックして進めてね！

まとめ

- 1 身体の外観観察を行うときの観察項目を4つ
挙げてください
傷病者の状態、出血、がんぼう顔貌、嘔吐・失禁
- 2 あなたが搬送を依頼されたお客様宅に到着した
ところ、お客様が倒れていました。どのように意識
を確認しますか？
肩をやさしく叩きながら、大きな声で呼びかけます
- 3 成人の呼吸数は1分間に何回くらいですか？
14～20回／分

以上で、学習のポイントを終了します。

理解できたかどうか、ミニテストで確認しましょう。

